

会報 うでまくり



会長退任のごあいさつ

会社経営に女性も男性もない。これは改めて言うまでもない万人が認める心理だと思うのですが、女性ならではの会社経営があつてもいいのではないのか、そんな夢があつて、六年もの間、福島県女性経営者プラザの会長を務めさせていただきました。(ともすれば独り合点で思い込みの強い至らない会長)を支えて下さった会員の皆さん、本当にありがとうございました。

いま、FJPのたいまつを新しい会長に手渡すことができて、私はホントと申します。設立十周年記念イベントですっからかんにした会計も、紺野委

き繼ぐことができ、小心者の私は本当に嬉しく 誇らしいのです。

式会社企画室・ヨア
代表取締役 三田 公美子

す。こうした時代の変化を敏感にキャッチし流れに乗つてゆけるのが一流の経営者でありますようが、じいと流れの底にうずくまり、自分の目の先三寸を守り抜くやり方もあるつて、実はそれこそ女性ならではの経営なのではないかと私は考えているのです。

昔の大店のおかみさんのように自分の目の先三寸を守り抜く生き方に心から憧れ続けています。

そして、福島県女性経営者プラザはこういう昔ながらの、女性ならではの経営を伝承する一つの道場であつてほしいと、見果てぬ夢を抱いていることを白状して退任の弁とします。

ほんとうに長い間、有難うございました。これからは一会员として会の発展に協力してまいります。改めてよろしくお願ひ申し上げます。

4. 16	定時総会＝エルティ 講演会「福島から全国へ」 講師・浅倉俊一ダイユーエイ ト社長
5. 17	講演会「地域起こしと経営」 講師・石森慎司＝コラッセ
6. 24	青研クラブ合同勉強会＝熱海 講演会「これから福島」 講師・佐藤雄平福島県知事
7. 17	ジャズフェスティバル準備例会
9. 31	ニューオリンズジャズフェスティバル ＝ホテルハマツ
10. 17	講演会「フルーオーシャン戦略に 強くなる」講師・中野明氏
11. 7	会員に聞く（上石・長沢・古山 会員）三田会長コーディネータ 移動例会（双葉町・求真堂 新そばを食べる会、東京電 力・浪江大浦相馬焼易学
12. 17	定例会（各委員会活動）
1. 17	講演会（〇〇八年わが国の景気 展望と福島市の景気予測） 講師・鈎村日銀支店長
2. 17	新年会（松溪苑）
3. 7	講演会「私の挑戦」 講師・本田勝之助（会津食のル ネッサンス代表）

平成19年度定例会

活動の軌跡

FJP

福島県女性経営者プラザ

- ① 女性経営者としての資質向上
 - ② 次の女性たちのための風土づくり
 - ③ 共同事業の開発
 - ④ 地域・社会への貢献

想 い



副会長 須田光江

この十二年間、女性経営者プラザは他の会には無い何かがあるという魅力に惹かれてまいりました。これは確信できることです。この会も糸余曲折を経て現在があります。さまざまなお輩方が、皆それぞれの想いと学ぶべきことを残していったと思います。

私は設立から入会し、次年度からずっと役員をさせていただきました。その間、私を含めた三人の副会長が、三田会長の下で検討課題についていろいろ意見を交換し、打打発止の全く息つくひまもないほどの議論をし、夜中高速道路を「まつたくモー、何でこんなことでカッカ」としながら高速を走らなければならぬの！」など、ブツブツ言いながら午前様になつたことなど、今思いますと貴重で有意義な時間でした。三田会長との出会い、素晴らしい運営をさせていただき、有形無形の宝物を貢献したこと、そして気概のある会員の心を学ばせて頂き、私の肥やしとなり、成長の糧となつたこと、心よ

り感謝申し上げます。

中国の言葉に「求道存異」というのがあります。異なる考え方を認め合うというこの言葉が私は好きです。これからも会員それぞれが切磋琢磨し、素敵なFJPをもっとより良い会に改革していくください。一人ひとりが楽しく集まる会、そして会員の益々のご成長を心より願い、FJPの発展をお祈りいたします。

新たなる周期に向かつて 共に飛び立とう

副会長 川崎葉子



連綿と続く歳月

に始まりや終わり

がある訳ではない

が、「干支」が「子」

FJPのみらい

副会長 上石美代子



から始まるからであろうか、今年は一年で言うならば元旦を迎えたような気持ちで、何か大きな周期のスタートの年のような気がする。何か一つが終了して、新たに「二」から始まる年ということで「了」プラス「子」なのだという。



素敵な出会いか

ら入会させていた
だき七年目、あつ
という間でした。

年齢も40代から50代に入り「年を

なってきた。特に昨年度の「ジャズ」は会員相互の連携力、各自の持ち場に於ける能力のフル發揮と、素晴らしいイベントだったと思う。わずか会員数四十人そこそこの、しかも全県下広域にわたるエリアで、一堂に会する機会もままならない会としては、見事と言ふ他はない。若い会員たちも少しずつ増えてきて、頼もしい限りだ。

十周年を無事に経て、今次なる二十周年に向かつて、静かな船出を始めた「FJP丸」。乗組員の一人として、諸先輩が示されてきたリーダーシップ力を学びつつ、仲間たちのパワーをいただきながら、次に続く世代とともにしっかりと進路を見守り続けていきたいと思う。

私が入会してから会員数は40～45名と変わりませんが、この人数が限界なのでしょうか、FJPの魅力はしっかりと発信されているのでしょうか

か…FJPを未来へと引き継ぐために、私たち一人ひとりが、甘えることなく、各々の会社への思いと同じように、FJPを元気に継続させていかなければならぬと思います。

入会した時より現在のほうが気持ちが前向きで、何事にもエネルギーに満っているのです。

総務の担当をさせていただいた四年間は大変勉強になりました。自己中心的な事務処理が対外的にどれだけ失礼なことかも学びました。先輩のご指導がなければ身につかなかつたことと、大変感謝しております。その後、調子に乗ってお引き受けした副会長職、この二年間を振り返って、何をやってきたのかな」と反省しております。

私のスケジュールの中に確固とした位置を占めているFJPですが、それは魅力ある会員の皆様にお会いし、その度にエネルギーを頂いているからではないかと思います。

私が入会してから会員数は40～45名と変わりませんが、この人数が限界なのでしょうか、FJPの魅力はしっかりと発信されているのでしょうか

か…FJPを未来へと引き継ぐため

に、FJPを元気に継続させていかなければならぬと思います。

力強いリードでFJPスピリッツを守ってくださった三田会長はじめ先輩方の熱い思いを胸に、ファイト！

平成十九年度

事業活動を振り返つて



事業委員長 紺野涼

あらめて平成十九年度の事業計画表を振り返ると、

年六回もの講演会

大評判だった「会員に聞く」、十一月の求真堂さんでのことだわり過ぎたオヤジさんのプライドに気を使い、笑いが止まらずお腹がよじれてしまつたこと、二月の松渕苑さんでの新年会・親睦会では、会員の皆様と今までにない交流ができたこと、などが思い出されます。

そんな一年の行事の中で、とりわけ八月のニューオリンズ・ジャズフェスティバルについては感慨無量です。平成十八年九月からほぼ一年をかけて会員の皆様の意見を一つずつ検討し積み重ねて來た経緯や、障がいの方々に「また来年もコンサートに行きたいよ」と言つて頂いたときは、ちょっぴり「頑張ったかな?」と、正直嬉しかつたりしました。

事業は委員長一人で頑張つてもできるものではありません。副委員長の眞壁さん、岡部さん、会員の皆様の手助けがあったからこそ、一步ずつ役目を

遂行出来たと感謝致しております。不功にまで支えてくださつたこと、そして一年間の事業を無事終えることが出来たことに、会長はじめ会員の皆さまにもう一度感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

色々とあつたこの一年の活動は思

い出一杯です。この貴重な経験をさせて頂いたことが、私の人生・魂の修行になつたことは言までもありません。

FJP会員の皆様、本当にありがとうございました。



二年間を振り返つて



総務委員長瀬戸孝子

会長はじめ理事の方々、そして会員皆様のご協力により、二年間続

きまして、

です。

本音を言えば、「総務はなかなか大変です……」と言いたいところですが、それだけに勉強させられるところも多々

あつたように思います。

と言いながら、私自身は総務としてやるべきことが余りできず、至らない

総務委員長だったと深く反省しています。

私はおもに会計を担当していましたが、毎月の例会などの出欠のまとめをしていました。そこで感じたのは、会の運営は会員の協力がないと成り立たないということでした。これからも会員の皆様方には切に協力をお願い申し上げます。

FJPは、「魅力ある会づくり」を目指して毎月の例会を開催してまいりましたが、出席率アップも思うように上がりませんでした。今後は「例会に出席することが意義あること」と、もう一度会員皆さんと考えていきたいと思っています。すべて勉強させていたいたことに感謝しております。

努力、努力、忘れてはいけません。FJPの発展に寄与してまいりたいと思つております。



必要とされるFJPをめざして



発展拡大委員長手塚佳子

平成18～19年

度はからずも委員長の役をお引き受けし、目標構成会

員50名の達成には結び付かせんでも、年度会員維持率80%と、会員の皆様には大変積極的な協力をいたしましたこと、心から感謝申し上げます。これまでの事業活動を振り返りますと

①熟きパッショントたくましい行動力の踏張りで、ジャズフェスティバルの大イベントをやり遂げたパワー

②時流を的確に捉えたピカピカチームの講演会、研修会、公開セミナー

③幾多の試練をもバネに培われた経験から語られる「会員に聞く」等々。

他の組織にはない様々な業種、年令、地域を超えたリベラルな人間関係の中から自分にないもの、自分ができない事が学び合える活動領域の広い魅力のある組織です。経営環境が厳しい時代だからこそ、FJPという大切な仲間と共にトライ＆チャレンジ、大いに刺激し合い、発展させていきましょう。

2007年度イベントから…Pickup



JAZZ



新年会

—松渓苑…2008.2.17～18



講演会

2008.1.17
新春講演会



2008年
わが国の景気展望

日銀支店長
鉢村 健氏

2008.3.7
ベンチャービジネス
『私の挑戦』
本田勝之助氏



写真もない、記事もない、企画もない、アイディアも時間もない：中での広報紙なんて、いいものができない訳がない！（分かつてました）今回、独断と力づくでやつてしまつた会報でしたが、快く原稿をお寄せくださいました皆様、会報の名前を考えてくれました皆様の暖かい心に感謝いたします（涙）。次号からは事業計画の一環として、FJP広報に役立つ会報づくりを目指していきましょう。皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。（吉川）

編集後記



報つていらうですから、いかにも女の腕まくりなんですが…。もともとは古い川柳に「朝雨女の腕まくり」とあります。天気のよい朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで、意気込みだけよ、大したこたあない、という意味なんでげすな。ま、ずい分見くびられたもんですが、それが付け目で、女の腕まくりの真価はこれからですよ。

(三田)

FJP設立十二年目にして初の会報つていらうですから、いかにも女の腕まくりなんですが…。

●会報「うでまくり」
なまえの由来